

## woman たらす



### 刺し子 (青森県)

布を糸で覆うようにびっしりと刺し込む刺し子。最も知られているのは、青森県津軽地方の「こぎん刺し」でしょうか。でも青森にはもう一つ、南部地方に伝わる「菱刺し」があります。

いずれも麻布に木綿の糸を刺しますが、こぎんは麻の縦糸の目を奇数で拾い、菱刺しは偶数

## 極寒の地が生んだ美

で拾います。この違いは文様に表れ、こぎんは縦長の菱形、菱刺しは横長の菱形です。色や刺し子を施す場所にも地域色がありますが、どちらも極寒の地だからこそ生まれた生活の知恵でした。

刺し子が生まれたのは江戸時代。当時の庶民が身に着けられたのは麻布だけで、とても北国の冬に耐えられるものではありませんでした。だから女たちは、家族を守りたい一心で布が見えなくなるほど木綿の糸を刺したのです。

その刺し子が今、呉服の世界で活躍しています。刺し子の帯は締めやすく、おしゃれ着の袖から柔らかい絹の着物まで幅広いコーディネートが可能。使い込むうち、麻と綿が一枚の布になっていく感覚が味わえるのも魅力です。

写真の帯は南部菱刺し。昔の女性たちに倣おうと、現代の職人が自ら布を織り、糸を染めました。緻密な菱文様には品格が感じられます。刺し子の美しさの裏にある途方もない苦労と努力。それを思いながら帯を締めると、気持ちがしゃんとします。

□ □

厳しい風土の中で育まれた東北の布や織物。十和田湖畔で「暮らしのクラフトゆずりは」を営む田中陽子さん(62)＝青森県十和田市＝が、東北ならではの布の魅力と着物の装いを紹介します。

〈第4金曜日掲載〉



たなか・ようこ 55年、青森県田子町生まれ。23歳で十和田市の旅館に嫁ぎ、89年に東北の伝統工芸品を現代の暮らしに提案、販売する「暮らしのクラフトゆずりは」をオープン(4月中旬まで冬季休業)。ホームページは<http://www.yuzuriha.jp>



菱刺しの帯は天羽やよい作「ふきのとう」(中央)と、同「松籟(しょうらい)」。反物は山形県の白鷹鬼皺(おにしぼ) お召し